

親子で本を好きになる方法

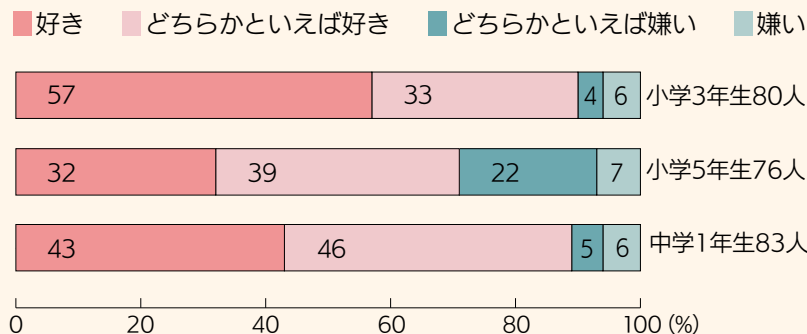
(参考:(公財)愛知県教育振興会 子とともに ゆう&ゆう2021年11月号)

本を読むことは、豊かな語彙や読解力を育みます。この語彙や読解力は国語だけでなく、算数や英語などほかの全ての教科の内容を理解するのにも必要であり、学力を上げるには欠かせないものです。本を好きになるキーワードから、親子で本に親しみ、本を好きな気持ちを育んでいきましょう。



【子どもたちの読書の実態】

子どもたちは読書についてどう考えているのでしょうか。小学3年生と中学1年生の約9割、小学5年生の約7割が「好き」「どちらかといえば好き」と答えていました。その主な理由は「親が読んでくれた」「家族が読んでいた」など小さい頃からの周りの環境が関係していることが分かります。



【本を好きになるキーワード】

01 ワクワクを大切に

子どもの興味や関心を大切にしましょう。世の中には子どもが「おもしろい」「読みたい」と感じる本がきっとあるはずです。また本を好きになるタイミングは人それぞれです。親が読ませたい本ではなく、子どもの気持ちに寄り添い、本を選んであげましょう。

保護者の声

漫画や図鑑、なんでも好きな本を読むといいと思います。私がいまだにあまり好まないジャンルでも子どもが説明してくれ、新しい発見ができ楽しいです。

02 いつでもそばに

子どもが小さいうちは、読み聞かせが読書の入り口になるようです。またいつでも本が手に取れる環境づくりも大切です。読書が特別なものではなく、ごく日常の身近なものになるような工夫ができるとよいでしょう。

保護者の声

文庫本や漫画、雑誌、絵本などそのときどきでいろいろな本をリビングの手に届く場所に置いています。本棚にしまっていた時よりも、子どもたちが手に取って読んでいる気がします。

03 家族も一緒に

本屋や図書館に行くだけでワクワクする子もいます。親子で本屋や図書館へ出かける機会を増やすのもいいですね。そして親自身も日頃から本に親しんでみてください。子どもと同じ本を読んで意見を述べ合うのも楽しみの一つになるでしょう。

保護者の声

夫婦共に本が好きで、子どもをよく図書館に連れて行きます。親が読書を楽しむことが、子どもが本に興味を持つきっかけになると思います。

保護者から読み聞かせをしてもらい、親子で一緒に本屋や図書館に出かけるなど、親子で本に親しむ機会の数々は、子どもが本を好きになるきっかけとなるでしょう。子どものワクワクする気持ちを大切に、たくさん本に出会い親しんでいきましょう。

